

連載

第3回

たんぽぽ教室より

「保育園・教育総合センターは今」

たんぽぽ教室は、乳児期から幼児期にかけての未就学児童のうち、運動や言葉、コミュニケーション等に不安がある、また、園生活にとけこめない等、育児の中で何らかの困り感のあるお子さんに対して、一人ひとりの成長にあったプログラム、教材を用いた遊びや学習の場を提供しています。

また保護者の方には母親教室を開き、育児情報や育児相談の場を提供しています。

スタッフには指導員、言語聴覚士（ことば）、作業療法士（運動）、臨床心理士（保護者相談）、音楽療法士と多くの



手作り教材

専門職員がおり、保健士も加わり個別指導やグループ指導にあたっています。

現在二歳から六歳までの児童二十六名（八月末現在）が通園しています。

乳児期からの早期支援が、学童期における支援に有効につながっていくよう、医療も含め、福祉と教育の連携は密になることが望ましく、平成十八年度から始まった福祉と教育のコーディネート活動は、その試みのひとつとなっています。

そのほか地域に向けて児童の理解のために年一度公開講座を開催しています（テーマはADHDの理解と対応、アスペルガー症候群の理解と対応、子どもを理解する視点と個別支援教育等です）。なお今年度は十一月二十一日に教育総合センター会議室にて開催いたします。多くの方のご参加を期待しております。



感覚統合のプランコ

ホタルが棲息する葉山小学校ビオトープ

『葉山町教育総合プラン』解説(8)



8月の葉小ビオトープ

葉山小学校のビオトープは、平成十三年、当時の六年生が総合的学習の時間にスコップを使って手作業で造ったのが第一号基です。これを、教育総合センターの建設に伴い、現在の場所に移設したのが今のビオトープ（右の写真）です。移設から一年半が経過した今は水質も安定し、メダカやカワニナが順調に繁殖しています。

第一号基では三年続けてヘイケボタルが発生し、光の舞を見せてくれたのですが、移設によって、ほとんどホタルの発生は見られなくなっていました。

そこで、昨年、ヘイケボタルとゲンジボタルの成虫から産卵・ふ化させて得た幼虫（下の写真）を、葉山小学校三年生の児童が育て、今年三月、ビオトープに移入しました。

そして楽しみに待っていた夏。六月に入るとちらほらと光り始め、中旬から下旬にかけて、多い日は約三十頭のヘイケボタルを観察することができました。ただし、何故か飛翔するホタルが見られず、ほとんどのホタルが葉陰でひっそりと光を放っていました。人工照明の影響等が考えられますが、いつの日か、葉小ビオトープにホタルの光が乱舞するのを期待して、今後とも見守っていきたいものです。

「学校ビオトープ整備事業」は、「葉山町教育総合プラン」にも位置づけられ、「学校ビオトープを活用し、動植物等の生態や環境についての研究を行う」として行っています。併せて、自然と直接ふれあい、生命に対する畏敬の念や自然の不思議、科学的思考力を育む場としての活用法を目指して参ります。



ホタルの幼虫(上)と成虫



創意くふう展

九月十四日(金)～十六日(日)の三日間、保育園・教育総合センター二階の学びの広場、研修室、会議室において、「葉山町青少年創意くふう展」が開催されました。

今年度は六六六点の作品が出品され、三日間の延べ入場者数は八三三人(児童生徒は四九九人)でした。

創意くふう部門の三賞(町長賞、議長賞、教育長賞)と優良賞の計九点の受賞作品は、十一月に行われる神奈川県青少年創意くふう展覧会に出品されます。

町長賞

高野 勝豊 (葉山中学校一年)



「簡単開封器」

おじいちゃんは手が不自由で、納豆などを食べる時に「たれ」の入った小さな袋を開封するのに手間取っています。

カッターなどの刃物は危険なので、ハサミを使用することを前提に考えました。これを使えば片手で「たれ」をこぼさずにきれいに開封することができます。

手の不自由な人でも家事に参加できるように考えました。実際に使ってもらえると嬉しいです。



「片手でも干せるくつ下干し」

議長賞

鈴木 沙季 (葉山小学校六年)



「シボリがえる」

お母さんがシャンプーの詰め替えで最後までしぼっているのを見て、最後までしぼれそうになかったため、シボリがえるを考えました。

教育長賞

高野 誠貴 (上山口小学校五年)

八月二十七日、福祉文化会館にて葉山町教育研究所公開講座(葉山町中学校PTA共催)が開催されました。講師はアイリッシュハーブ奏者の永山友美子氏。アイリッシュハーブの美しい調べにのせて、「どんな人も、どんな子どもも皆、愛し愛されるために生まれてきます。子どものありのままの姿を受け入れ、たっぷり愛し、そして何かあった時は命がけで守ってあげる、それで十分なのではないでしょうか。」等々、愛情あふれるメッセージが、ユーモアたっぷりのエピソードを添えて語られました。

心豊かな子育てを!

感動の輪が広がった

永山友美子氏の講演会から

講演終了後も、立ち去りがたい様子の参加者と写真を撮ったり語り合ったり、交流が続いていました。参加者からは「本当に、本当に素敵な時間を過ごすことができました。こんなにも心洗われたことは今までありませんでした。一曲、一曲、そしてお話の一つ一つ、一言、一言がすべて心にしみこんできました。母親としても忘れかけていた大事なことを思い出させてくれたように思います。」等、感動と感謝の思いを綴った感想がたくさん寄せられました。